

図 2

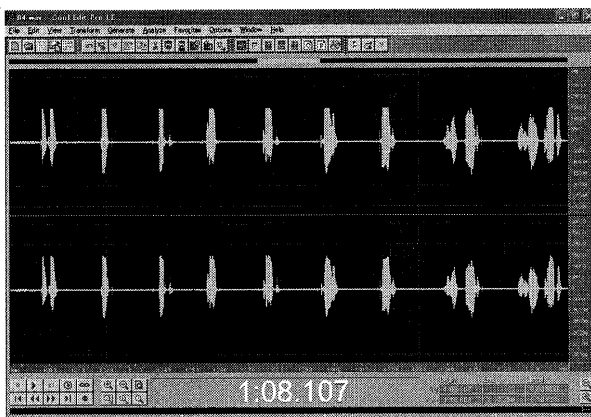


図 3

一つの単語の部分のコピー＆ペーストすることで、単語一つ分のファイルを作った。例えば、図2が、1課分の音声ファイルの波形であるが、それを拡大（このソフトでは、表示する音声ファイルの長さを変更することができる）したのが、図3である。この一つの波が単語1個分にあたる。これをコピーして、新規のファイルにペーストして、音声ファイルを作成した。

授業時間は月曜日の1限と水曜日の2限、学生数は、当初の登録学生数は理学部、工学部の27名、12月末現在で、26名である。教室は、学期のはじめは、普通教室が割り当てられていたが、水曜日の2限は、第3LL教室に変更し、パソコンを利用したLL装置を用いた。

最初の計画では、昨年までこの教室のメインコンピュータにインストールされていた教材配布ソフトを利用し、各学生のブースに教材を配布するつもりであったが、このソフトがウイルス対策が施されていないという理由で、アンインストールされており、利用することができなかった。また、昨年は、学生が教室外のWEBサイトを利用するには分室アカウントを取得する必要があったが、今年度は、正式に確認はしていないが、その必要はないようであった。そのため、教材をすべて報告者の研究室のサーバーにおくことも考えたが、27名の学生が

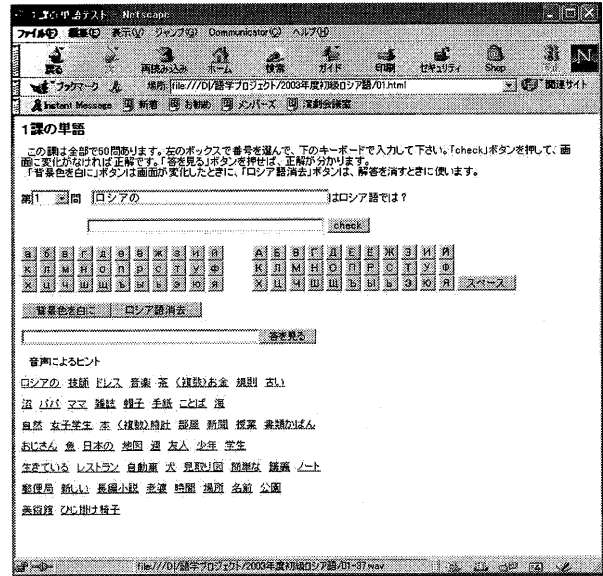


図 4

一度にアクセスした場合にそれに対応できるだけの性能を有していないので、結局、進度に合わせて、学習を終了した課までの単語練習ソフト（昨年も利用したもの）に、音声ファイルを付加したものをCD-RWにコピーし、それを授業開始時に学生に回し、各ブースのコンピューターへコピーしてもらった。

12月の最後の授業の際に、各課の単語問題とその音声ファイル、動詞の変化の問題、名詞の格変化の説明、さらに昨年度の最終試験の問題をWEBブラウザを利用して閲覧することができるものをCD-Rに焼いて、配布した。

### 学生の評価と今後の課題

本報告の締め切り日（12月26日）の直前の、最後の授業の日（24日）に、上で述べたCD-Rを学生に集中的に利用してもらい、それについて、さらにそれまでの授業の際に利用してもらった単語練習ソフトについて感想を書いてもらった。ここでは、まず、この単語練習ソフトの内容と、授業の際での利用方法について述べたあとで、学生の感想を紹介したい。

ソフトは、JavaScriptを使って作っており、WEBブラウザを用いてファイルを開くと、図4のように、日本語で単語が提示され、画面に表示されるキーボードの文字の部分をクリックすることで、ロシア語の単語が入力できる。不正解の場合はcheckボタンを押した時に、画面が赤くなる仕掛けになっている。さらに、今年度は、上でも述べたように、ヒントとして下に音声ファイルへのリンクを用意し、日本語を見ただけで単語が思い浮かばない場合に、音声を聴き、それをヒントに綴りを考えるというシステムにした。また、教科書を見ながら、音声ファイルを聴いて、単語の発音練習もできるようにした。

授業時間には概ね、1文法事項の説明 2単語の説

明とその発音練習 3教科書の例文の発音練習 4練習問題の解答といったことを行っているが、その途中にコンピューターを利用した単語の練習の時間を取った。さらに、12月中に10課ある教科書の5課までを範囲とした中間テストを行い、3課、5課の単語から、和文露訳の問題を出すということを予告し、動機付けをはかった。このLL教室では、学生がやっていることを教員の席からモニターできるのだが、中間テストが、合格（文法事項5問、単語がほとんど与えられている簡単な和文露訳3問のうち、2問間違えると不合格）するまで何度でもやるというシステムになっているため、合格した学生は先の方の問題をやり、まだ合格していない学生は、指定された3課、5課の単語練習をするという傾向が見られた。

さて、次に学生の感想の紹介に移るが、たまたま、実施した日が、理学部向けの教職科目の集中講義の始まる日で、15名の学生からしか回答を得られなかった。

最初にプラスの評価の方からあげるが、こちらが意図した通り、音声をすぐ聴くことができるということへの評価は高かった（15名中12名）。なかには、「テープだと頭出しが面倒」というように書いてくれた者もいた。次に、間違えた時に、画面が赤くなるというシステムが意外に好評で、4名がこのことに言及していた。このシステムを採用しているのは、教室の後ろに立って全体を見てみると、誰が間違えたかがよく分かるからなのだが、「うるしの人間違いがバレる」からためになると書いた学生もいた。

また、こうした単語の勉強のやり方自体を評価してくれた回答もあった。例えば、「自分のペースに合わせて音声を聞きながらできるというのはとても良いことだと思う」というように。

反対にマイナスの評価を受けたのは、まず、文字盤のロシア語の文字が小さいということ（15名中7名）、ロ

シア語の入力方式が複雑、あるいはインサートができないという点（15名中4名）であった。これらは、私自身のコンピューターの能力の問題であるが、何しろ、htmlファイルの基本的な書き方は分かっている、教育上の本業（人文学部、全学共通科目での演劇関係の授業、ロシア語）とはかけはなれており、なかなか、そちらに時間をさくことができなかったのである。次年度への課題としたいと思っている。

課題ということでは、学生達が具体的に指摘してくれたので、それもいくつか記しておきたい。

- ・つづりが合っていた時も背景の色が変化するようにしてほしいと思いました。
- ・音声を流す時にメディアプレーヤーが立ち上がらなければ見た目的（みためてき）にもっといいと思った。
- ・「第2問」を押した時に第1問で打った単語が消えてくれるとうれしいです。
- ・（音声の）ファイル数が多くなるのでフォルダに入れて整理してもらいたい。
- ・単語の問題をランダムにできると良い。
- ・教科書の例文もすぐに聞けるようにデータ化して欲しい。著作権に触れるというなら、無理かもしれないが。

こうしたことは、この報告の執筆後も授業があるので、改善されているかもしれない。学生に配布したCD-Rの内容にさらに別の事項をプラスしたものを、報告者のWEBサイトで公開しているので、ご確認いただければ幸いであるが、ただし、音声ファイルについては、上で学生の一人が指摘しているように、著作権の問題もあるので、一部のみを公開している。授業の際には、テープを授業で利用するのと同じことであると考え、リンクしてあったものである。

感想を寄せてくれた、平成15年度初級ロシア語Ⅰの3の受講生の諸君に感謝の気持ちを記して、この報告を終えたいと思う。